



THE HIROSAKI UNIVERSITY LIBRARY BULLETIN

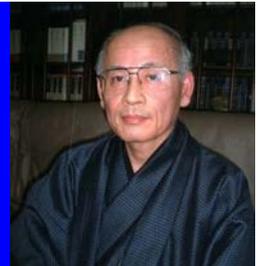
弘前大学附属図書館報 No.30 2009.11

目次

巻頭言 情報発信は附属図書館から	1
特集 第5回『言語力』大賞コンテスト	3
特集 新たに指定された貴重資料の解説	6
lead-off 本との出会いを楽しむ <第4回>	7
lead-off 図書館に関する話題 <第4回>	8
lead-off Library News	10
弘前大学出版会より新刊紹介	12
本学教員等著作寄贈図書・資料一覧	13

## 情報発信は附属図書館から

理事・副学長（社会連携・情報担当） 三浦 康久



平成21年の弘前大学は、教職員、学生、卒業生、それに地域住民らにとって、記憶や記録に残る年になったのではないだろうか。

今年は本学が創立して60周年というさらなる躍進の年を迎えることから、北国の美しい四季を通じて多彩な記念行事が学内外の方々の協力と理解のもとに催された。

一連の行事の主役は、本学の大先輩として誇れる太宰治である。本学創立60周年と太宰治生誕100年という記念すべき年をリンクさせることで、弘前大学の名が地域の人財、文化、歴史などととも全国発信ができたものと確信している。

桜の花つぼみが咲きほころぶ頃、附属図書館のスタッフが埃にまみれながら整理していた官立弘前高等学校の膨大な資料群から、埋もれていた一葉の写真を見つけだした。

その瞬間、恥じらうような微笑をたたえた17歳時の太宰治が、永い眠りから蘇ったのである。

生誕100年の意義ある年に、肖像写真の新発見という絶妙な偶然に学内が驚きと喜びに包まれた。新

発見は幸運な偶然だが、歴史のシナリオとしては必然的だったのかもしれない。

この大発見の記者発表の席で、本学の若き教員が解説役で全国デビューした。彼はこれを契機に太宰治の研究者として関連行事の中心的存在となったほか、本学出版会が記念発行した「官立弘前高等学校資料目録」に研究論文を寄稿するなど学内外に活躍の場を広げている。

太宰治というネームバリューを活用したイベントは続く。

月見草にも似た花明かりが津軽野を仄かに染める時、大学構内に太宰治の文学碑が建立された。除幕式には、梅雨空のなかを太宰治のご長女が駆けつけてくださった。碑文は『津軽』から、ご長女がかねてから思いを寄せていたという一節が引用された。

私は、慣れない業務の先行きに不安を覚える時、文学碑の前に佇むことにしている。一見弱々しい刻字から太宰治の目線を感じる。いつのまにか太宰治の世界にひたっている自分に気づく。恍惚とはこういうことなのか、これが太宰治の持つ力なのか、と。

北の街の短い夏が終わろうという二週間、「シニア・サマーカレッジ」が開講された。全国のシニア層を対象にした地元滞在型の公開講座で、4回目を迎える。

今年のカリキュラムは、太宰治を中心に展開した。講師には先述した若手教員のほか、弘前市で活躍している太宰治の研究諸家をお願いした。その趣旨は、全国から参集する受講者を通じ、名実ともに知名度のメジャー化に寄与しようと考えたからである。

その狙いが果たせたかどうかは別として、太宰治特集の企画が功を奏し、開講以来もっとも多い受講者を迎えることができた。これも太宰治効果と言えよう。

秋日和の穏やかな午<sup>ひる</sup>下がり、「学術講演会」が開催された。今年のテーマは太宰治をおいてほかにない。構成は単なる学術講演に止まらず、本学附属中学校演劇部員による「走れメロス」の群読で彩りを添えた。舞台を飾った若人が、附属中学校の存在を改めて県民市民に知らしめてくれた。

講師には、東京大学から著名な太宰治研究者をお招きし、独自の観点から表現世界が論じられたほか、太宰治のご長女をふたたびお迎えして、秘蔵の家族写真の紹介とともに限りない家族愛について語りかけられた。ホール聴衆が味わい深い一言ひとことに酔いしれていた。

山もみじが季節の色に燃える頃、芸術の秋にふさわしく願ってもない朗報が舞い込んだ。モントリオール



太宰治の文学碑

世界映画祭の最優秀監督賞受賞作『ヴィヨンの妻〜桜桃とタンポポ〜』の先行上映である。

全国公開を前に本学で上映が実現できたのは、太宰治を生んだ学び舎で後輩の学生に鑑賞して欲しいと願う映画関係者のご厚意からであった。上映前に、映画監督とのトークショーが行われ、本学の若き研究者がお相手をつとめた。当日の様子はメディアを通して各地へ発信された。

ほかにも最近、太宰治関連の新たな資料の寄贈があり、キャンパスが雪色に包まれる頃までには公表すべく温めている。

大学業務がどちらかというと六法全書ふうな側面が濃く、もうすこし情緒的な色合いに満ちていれば嬉しいのに、と叶わぬ願いを抱いている日常の中で、私にとって一服の清涼剤とも言える太宰治を媒体とした全国発信ができたことは、たいへん喜ばしく思っている。

ところで、本学が進めてきた太宰治関連のイベントには、附属図書館長以下のスタッフが貢献しており、弘前大学の名声を全国へ発信し印象づけたことは、評価されることである。

<世界に発信し、地域と共に創造する弘前大学>という目標に向けて、特色ある大学運営が求められている今、これからもその推進力の源泉を附属図書館におおいに期待している。

(みうら やすひさ)

私には、また別の専門科目があるのだ。  
世人は假りにその科目を愛と呼んでゐる。  
人の心と人の心の觸れ合ひを研究する科目である。  
私はこのたびの旅に於いて、  
主としてこの一科目を追及した。

太宰治『津軽』より

# 特集 第5回『言語力』大賞コンテスト

## 書く理由

第5回言語力大賞 大賞受賞 人文学部2年 三浦 元義

まず応募のきっかけとしては、実は私はこの賞の存在を去年の五月頃、入学してかなり早い段階で聞いていた。小説が好きで、ということ先輩に話していたらこの賞のことを紹介されたのである。

という訳で、友人と息を捲いて去年も作品を提出したのであるが、結果は見事に落選。もちろん友人も。私の作品は今読み返せば審査員の方々の目が正しかったのだと納得するしかないのだが、友人は今でも去年自分が落ちたのは俗に言うカテゴリーエラー(賞の傾向に作品の方向性が即していなくて弾かれること)であったのだと信じている。

確かに昨年までの受賞作を読んだ限り、作品の傾向として比較的シリアスな話が多い。去年の友人に限らず、誘ってみた人の何人かには、私はあまり真面目な作品は書けないから、と言って敬遠した人もいた。

告知の方法については、私は入学したての頃から知っていたのでうまく言えないが、この大学で小説を書いている人は今回この賞に投稿した人よりも沢山いることは確かである。その人たちにも作品を投稿してもらえそうな賞になってほしいと思う。

今年の投稿作品に関しては、夏休みの「日本文学演習 A」という太宰治を扱った集中講義で、東郷克美

先生から聞かせて頂いた講義内容がそのまま元ネタになっていたりする。講義中にふと東郷先生が言った、今回の講義のレポートは短編小説の形式にしようか、という言葉に触発されて講義中に考えていたあれこれに、以前遠野に旅行に行った時に語り部の方から聞かせて頂いた物語がくっついてこの様な形になった。

今回、このような過程を経て書いた作品が、賞に選ばれたということは私にとってはとても嬉しいことである。兼ねてより文芸部でもっと本を読んだり書いたりして語り合える人間が増えないものかと思っていたのだが、孤独と思いがちな創作という作業に、ここまでいろんな方が関わっているのだと実感することが出来たのはとても勇気づけられるものがある。

やはり、何かを書くのにはエネルギーがいるし、理由がいる。自分が書きたいから書くのだと黙々と書き続けられる人もいるのだろうが、少なくとも私はそうはなれなかった。その意味で、大学が主催でこのようなコンテストが開かれているというのは学生にとって大いに励みになっていると思う。

最後に、東郷克美先生、先生を大学に招いて下さった方、さらには遠野の駅前で興味深い話を聞かせて下さった語り部の方々にも、ただただ感謝です。

(みうら もとよし)

### 第5回弘前大学学生『言語力』大賞コンテスト 受賞者一覧

I : 文学作品部門 (ジャンルは自由)

\*応募総数 16点

大賞 人文学部2年 三浦 元義

「幻灯夢」

優秀賞 教育学部4年 民部田 真由子

「四季」

〃 人文学部2年 柳谷 智美

「もしも、ホテルみたいなら」

〃 理工学部4年 水口 元

「写真」

佳作 人文学部4年 山本 浩輔

「落書き」

II : 評論部門 (テーマ「太宰治 ; 一人と作品」) \*応募者無し

★受賞作品公開★<http://www.ul.hirosaki-u.ac.jp/guidetop/gengoryoku/index.html>

# 日常性に潜むドラマの発掘を期する

第5回言語力大賞審査委員 弘前医療福祉大学准教授 斎藤 三千政



学生の創作を読むのも、審査するのも、はじめての経験だ。応募作品数16篇を読み終えて、驚いたことがある。学生ゆえに、青春期ゆえに、当方が想定したその創作モチーフは、格差社会の問題、混迷する政治問題、あるいは恋愛の苦悩などに力点が置かれるのではないかと、という予想だった。ところが、案に違い、多くの作品で扱われたテーマは、いうならば「日常性の問題」なのである。もっと具体的にいえば「家族の問題」が、その主流を占めていた、ということだ。

むろん、そのことを不満に思っているわけではない。それどころか、入賞作品を含めた多くの作品が、じつに、みごとに小説世界を構築していることに、むしろ、多大の感銘を受けたのである。

たとえば、審査員の圧倒的な支持を得た、大賞受賞の「幻灯夢」は、小説の構成、場面展開の巧みさ、そして、過去と現在をクロスさせることによって、姉の失踪事件の謎、変容していく主人公の心理状況などを浮かび上がらせる。この手法は、まさに直木賞作家の長部日出雄がいう「人間が、決して後には戻らない時の絶対的な流れによって運ばれながら、意識のなかでは絶えず過去と現在を往復して生きている存在であるからに違いない」ということばを、想起させる。

なによりも、この作品は冒頭からして、まことにストイックな文章で読み手を幻想的な小説世界に誘うのだ。その表現力には、それこそ舌を巻かざるを得ない。作家の河野多恵子が「よい作品の導入部には、その作品の気配の手応えが早くも感じられている」という、その気配が濃厚なのだ。

また、優秀賞の「写真」は、物心がついたころに、なぜか母親が姿を消し、父と子のぎこちない二人暮らし

を余儀なくされるなかで、懸命に希望を見出そうとする高校生の健気な姿を描いていく。

さらに、同賞の「もしも、ホテルみたいなら」では、父親の突然の交通事故の死に遭遇し、現実として受け止めることができない主人公が、不条理というほかない事態に、いうことばを失い、立ちすくんでしまう姿を、巧みに描出していく。二作とも確かに、きわめて深刻な事態の出来をテーマにしている。しかしながら、孤独感に耐えながら、それでも前向きに生きようとする主人公を、静謐なタッチで描く作者の筆さばきは、みごとというほかない。付け加えるならば「写真」の、往復する「坂」の設定、「もしも、ホテルみたいなら」での、ラストの「蛍」の設定が、主人公の心象風景の表出に、抜群の効果を挙げているように思われる。

紙幅が尽きたようだ。応募した学生諸君の日ごろの文字・活字への関心は、強いと見た。来年もぜひ挑戦してほしい。併せて、学生諸君に感謝をしたい。というのは、まことに、個人的な感懐で恐れ入るが、久しく忘却のかなたにあつた次の一節を、思い出すことができたからである。

—日々、なにひとつ新しいものがないかのごとく見える日常性、—だが、そこにも人間の深淵がぼっかり口をあけており、それからしても人間のもろもろの問題を問いかけることができるはずだ、と。悲劇的でも喜劇的でもない日常の中に、だれが、どういうすばらしい劇を掘りあてるか、現代の、それが課題である、と私は考える。……

四十年まえの、作家の高橋和巳のこの「ことば」は、いまもその光彩を、失ってはいない。

(さいとう みちまさ / 弘前ペンクラブ会長)

## 継承と創造の言語力を

第5回言語力大賞審査委員 人文学部講師 楊 天曦



第5回弘前大学学生『言語力』大賞コンテストは円満のうちに幕を閉じた。

応募作品は、詩作が一篇含まれる他はすべて小説の体裁をもつ作品だった。ファンタジックな表現が多いのは、学生たちがそのようなジャンルに触れることが多い傾向の表れだろう。全体的に、構造が漫画的だったり、表現が映像的だったりする、文章にサブカルチャーの影響が見られる特徴がやや目立った。日本の近代小説に通じるテーマと、言葉の表現への継承性を確認できる作品もあり、そのような一作の「幻灯夢」に大多数の票が集まった。民話を取り入れ、異界の時間と現実の時間を交差させたこの作品に大賞が与えられた。優秀賞に、自然と人間をテーマにした詩作「四季」、命の表現を蛭に託した「もしも、ホタルみたいななら」、風景、空間描写を軸に構成される「写真」が選ばれた。佳作「落書き」にはバーチャルな世界に現実感を滲ませる軽快さがあった。5作品のうち3作品が家族の絆の表現を表現しているところに共通点がある。

語彙が多く、心理描写やディティール表現が巧みな文章から、作者の学生は近代小説を読んでいることがよく分かる。また、サブカルチャー的な表現が多い

が、中にはきらりと光る新しさを見られる作品もあった。継承性と創造性のバランスがとれる言語力の大切さを改めて感じる。

応募作品の16作品すべてがフィクション作品に占められ、当初の企画にあった、「太宰治生誕100周年記念にちなんで、「太宰治一人と作品ー」をテーマとする評論部門への応募がなかった。今回の「言語力大賞コンテスト」の遺憾な点である。評論部門のテーマの範囲が定められる形をとる場合、その専門分野の教員が学生へ呼びかけるという形で意欲を喚起する方法も考えに入れることができたかもしれない。

コンテストに対する応募者からの意見として、「他大学からもうらやましがられる位、面白く良いイベントだと思います」、「もっと盛り上がればいいなと思いました」、「書く機会を得てよい経験になるので、これからも続けていってほしいです」というコメントが寄せられた。書きたい、言葉で表現したい、大学時代にこのようなわくわくする表現活動に参加したいという積極的な姿勢が見られたことがとてもうれしい。これまでの経験と蓄積の上で、今後「言語力大賞コンテスト」がよりバラエティーの富んだイベントに発展することを願う。

(よう てんぎ)

## 第5回言語力大賞コンテストの審査を終えて

第5回言語力大賞審査委員 理工学研究科講師 根本 直樹



それまで存在しか知らなかった「言語力大賞」の審査委員を依頼された。断ろうとしたが熱心に依頼されたので、「他に引き受け手なく困っているのだろう」と勝手に推量して引き受けた。自分に文学的素養はないと自覚しているので、内容には踏み込まずに、「きちんとした文章で書かれていること」を審査基準とした。普段読んでいる学生諸君のレポートの一部にはかなりひどい文章が見られ、そのような基準で充分に優劣がつくだらうと甘く見ていた。しかし、その目論みは見

事にはずれた。自ら応募するだけのことはあり、しっかりした文章の応募作品が多かった。

以下、審査を終えて感じたこのコンテストに対する要望である。まず、応募者の少なさにはとにかく驚いた。「学生の文字・活字文化に対する関心と理解を促進し、(中略)言語力及びコミュニケーション能力の向上を図る」という本コンテストの目的が達成されているとは到底思えない。PR の努力はされているが、もう一段の工夫をお願いしたい。さらに、PR だけではなく応

募したくなる環境づくりも重要である。審査委員会等でも意見が出たが、読書感想文や書評など、より多くの学生が書きやすい部門の設立を考えて頂きたい。対象とする本を毎年数冊ずつ予め指定すれば、学生にお勧めの本を読んでもらえるし、審査も楽である。受賞作の著作権は図書館に属するのだから、何年か後に受賞作品集を出版してはどうだろうか。どのような作品が受賞したのかという情報は応募する際の参考になるし、「自分の作品が出版物になるかも知れない」ことが応募のモチベーションになるだろう。21世紀教育等に文芸作品執筆のための構想等の仕方を学ぶ講義を設置するのも良いかも知れない。日程も再考し

て頂きたい。審査期間が新学期開始や科研費申請の書類作成の時期に重なり、本学教員の審査委員には大変な負担である。「活字・文化の日」にこだわるなら、むしろこの日を応募締切としてはどうだろうか？応募者は夏休みが終わって最後の一踏ん張りができるし、審査期間も応募数に応じて変更できるだろう。また、現状では選に漏れた作品はどこを改善すれば良いのかフィードバックがない。「言語力」向上を望むならそのフォローも考えて頂きたい。以上思いつくままに書いた。ここで書いたことがどの程度取り入れられるか分からないが、来年度の応募者大幅増をお祈りする。

(ねもと なおき)

## 特集 新たに指定された貴重資料の解説

### 「弘前八幡宮古文書」について

附属図書館長 長谷川 成一



本学附属図書館には、「弘前八幡宮古文書」(以下、八幡宮日記と略記)196点が所蔵されています。このたび、新たに貴重資料に指定され、本館の「貴重資料保管室」に保管されることになりました。

本資料は、本学が弘前八幡宮から10万円で購入し、昭和38年(1963)8月27日に、受入れたものです。受入れ後、教育学部に保管されていましたが、昭和55年(1980)ころに附属図書館へ移管し、以来、本館の貴重資料保管棚に収納され閲覧に供されてきました。

内容は、大きくは二つに分かれ、八幡宮の社務日記と風俗文選ですが、大部分を占めるのが、元禄6年(1693)から明治41年(1908)にいたる、215年間の社務日記です。弘前八幡宮の宮司を代々務めた社家頭しやけがしらの小野家が、17世紀末から20世紀初頭まで、途切れることなく記録してきた日記であり、全国的に

見ても類例は少ないと思われます。近世・近代における神道史、宗教史、津軽地方における宗教政策史、藩政史を研究する上で、大変貴重な資料であることは言うまでもありません。具体的には、藩政時代の弘前藩における神職の支配形態、寺社統制、明治維新期の神社側から見た神仏分離と国家神道の実態等を研究する上で不可欠の資料です。加えて軍都弘前のなかで果たした近代の八幡宮の役割など、示唆に富む記事内容から、今後、多くの研究者によって活用されるものと期待しています。

風俗文選は、江戸中期の俳人許六が芭蕉の遺志をついで編んだ最初の俳文選集で、宝永3年(1706)の刊。小野家の蔵書と推定されます。当時の社家たちや弘前の文人の教養等を知る上で、有益なものではないかと思われます。(はせがわ せいいち)



八幡宮日記の中で最も古い  
元禄6年(1693)の「万覚帳」



「万覚帳」元禄6年6月2日条。  
弘前藩4代藩主の母・久祥院立願の際に下付することになっていた、横内妙見堂など4社への初穂料についての記事

## きっかけ

農学生命科学部准教授 柏木 明子



弘前大学の教職員の中で群を抜いて読書量が少ないであろう私が、「本との出会いを楽しむ」という原稿執筆を引き受けてしまった！としばしの後悔の後、今までに読んだ数少ない本の記憶を辿り、多田富雄先生の「免疫の意味論」のことを思い出した。大学入学後、大学の講義に全く興味を持たず消去法で選んだ研究室に入って1年がたった頃、「免疫の意味論」の輪読をしようと声をかけてもらった。週に1回輪読の日が来るため否応なしに読み始めた。私が所属していた学科は微生物の応用が専門でヒトの免疫というものに対してはほとんど知識を持たないまま読み進めた。理解したつもりでいても輪読の日に出てくる指導教員からの「問い」に対し「そんなこと考えてもいなかったです。」という感想が真っ先に出るわ、きちんとした議論に持ち込めないわ、という状態に「何も考えていない自分」にこの頃初めて出くわしたのかもしれない。このような状況の中においても、本の中に書かれている「自己と非自己」について読み進め、それらの違いは

何か？ということについて議論となった。考えながら色々と列挙してみると、その枠組みの中からはみ出してしまう例を同時に思いついてしまう！ということに気づいた。また同じころ「生物と非生物」との違いは何か？ということも考える機会もあったが、同様に枠組みの中からはみ出してしまう例を思いついてしまうという事に遭遇した。その頃まではあまり考えたこともなかったが、考えてみれば、「自己と非自己」や「生物と非生物」の違いというものを感覚的には捉えているつもりではあったが、いざ羅列してみると明確に書ききれなかった。しかし、我々は何が「自己」で何が「非自己」か、とか何が「生物」で何が「非生物」か、を感じてはいるのではないかということにも気づいた。羅列しようとしたことがそもそも間違いなのか。。。これらをどういう風に記述すればよいのだろうか。。。等とこの頃から考え始め、未だにはっきりとした答えを見いだせないままである。

(かしわぎ あきこ)



柏木先生が紹介された、多田富雄著『免疫の意味論』を本館及び医学部分館で複数冊所蔵しています。

所 在: 本館2階開架書架 他

請求記号: 491.8/Ta16

図 書 ID: 06615914

# lead-off 図書館に関する話題 第4回 文系図書購入

文系図書の紹介

## チャングムとその時代

人文学部准教授 荷見 守義



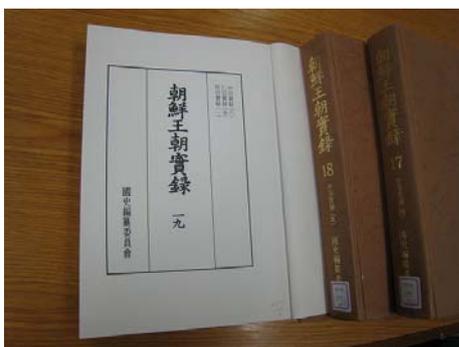
「宮廷女官チャングムの誓い」は2004年10月からNHK-BS2で放送されて以来、2008年までに総集編と併せて6度に渉り放送されるなど、視聴者の広範な支持を得た韓国テレビドラマである。原題は「大長今(テジャングム・偉大なるチャングム)」で、韓国MBCで2003年から放送され、「冬のソナタ」と並んで日本の視聴者に韓国(韓流)ドラマブームを巻き起こした。主役の「徐長今(ソジャングム)」が実在の人物であることも広く喧伝されている。ドラマでは物心ついた頃に両親を失ったチャングムが見習い女官としてスラッカ(水刺間・王宮の台所)に入り、その天性の才能と類いまれなる情熱でたちまち頭角を現す。しかし、ライバルから陰謀を仕掛けられた彼女は度々失脚の憂き目に遭う。その彼女を支えたのは文官のミン・ジョンホであり、彼との恋の成就が物語の伏線となる。やがて幾多の困難を乗り越えたチャングムは中宗(チュンジョン)の主治医として全幅の信頼を得ることになったのであった。

弘前大学附属図書館所蔵の『朝鮮王朝実録』(『李朝実録』)を繙くと、中宗の巻105にチャングムの記録を見ることができる。西暦では1544年、中宗の39年10月26日に朝鮮国王中宗は「予の症状は、女医これを知るなり」と評し、それに続いて「女医長今」による病状報告が掲載されている。そう、この時、中宗は「不豫」であった。「不豫」とは「フヨ」と読み、貴人の病氣

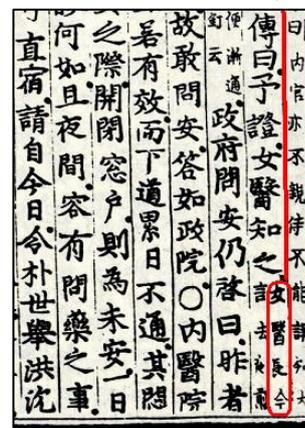
のこと、中宗の病状はかなり深刻で、彼女の献身的な看病も実らず、翌11月15日の酉の刻、午後6時前後に薨去した。チャングムは王の最期の時まで付き従っていたようであった。ただ、現在、これ以上チャングムのことは分からない。

そこで中宗を通して彼女の生きた時代を見てみたい。中宗は本来、即位する予定にはなかった。実兄の燕山君(ヨンサングン)が第10代の国王であったからである。しかし、燕山君が苛烈な臣下肅正をしたことから人心が離反し、1506年、朴元宗(パク・ウォンジョン)ら臣下がクーデターを起こして晋城大君(チンソングン)であった中宗を第11代国王に据えた。そのため、政権の実権は臣下が握り、即位後、彼らに迫られて中宗は連れ添った王后すら離縁させられた。外交においては1510年に三浦の乱が起き、朝鮮と対馬の関係が厳しくなった。また、中宗の後半期には、日本で石見銀山が開発されたことから、日本銀が大量に朝鮮に持ち込まれ、中宗の懸念をよそに官民上げて銀を用いた中国明朝との貿易に狂奔することになる。ドラマでチャングムが巻き込まれることになる陰謀の裏には、このような大きな時流の変化が渦巻いていたのである。苦労が絶えなかった中宗を看取ったチャングムは、さて、いかなる感慨を懐いたであろうか。

(はすみ もりよし)



『朝鮮王朝実録』  
本館旧書庫5層大型本



チャングムに関する記述の箇所  
『朝鮮王朝実録』第19冊 p.152  
「巻一百五 中宗三十九年甲辰十月」

# 文系図書・資料購入について

資料管理グループ係長 三上 豊

附属図書館では、人文学、社会科学、教育学の分野において、国立大学として教育研究の学術基盤の向上のために附属図書館図書選定委員会に「文系図書・資料選定ワーキンググループ」(長谷川成一附属図書館長ほか5名)を設けた。ワーキンググループ委員のほか、各専門分野におけるエキスパートの先生方にも御協力いただき、図書・資料類の調査・選定作業を行った。また、附属図書館の蔵書は、継続的に刊行される叢書類の欠本が多く、コレクションとしても大きな欠陥を抱えているため、欠本の調査・選定作業を合わせて行った。選定資料にはマイクロフィルム、マイクロフィッシュ、CD-ROM、DVDなども含めた。

この結果を基に文系図書・資料整備5ヶ年計画を策定し、この整備計画を遂行するための経費を大学側に要求し、平成20年度より整備することが認められた。

今後、この整備した文系図書・資料を多くの教員・学生の皆さんに活用していただき、教育、研究、学習の向上につなげていただきたい。

平成20年度整備した文系図書・資料のリストを Web に掲載し、その一例を下記に挙げる。

(リスト掲載 [http://www.ul.hirosaki-u.ac.jp/pub/housen/30/housen30\\_bunkei.pdf](http://www.ul.hirosaki-u.ac.jp/pub/housen/30/housen30_bunkei.pdf))

(みかみ ゆたか)

## 文系図書・資料購入リスト【平成20年度整備】の一例

### 1. 叢書・資料類【図書】 (合計 1,448 冊)

選定分野	書名	発行所	出版年	数量
総記	学ぶ人のために 1967年～2003年刊行分	世界思想社	1967-2003	96 <sup>(冊)</sup>
哲学・倫理学	中村元選集 全32巻;別巻1-8	春秋社	1988	40
心理学	臨床心理学全書 1-11	誠信書房	2003-2005	11
東洋思想・仏教	真言宗全書 全42巻・付解題・索引	平凡社出版販売	2008	44
考古学	考古資料大観 全12巻	小学館	2002	12
地理学	シリーズ人文地理学 1-6,8-10	朝倉書店	2003-2005	9
法学	日本立法資料全集 2～	信山社	1992-2009	68
教育学	社会・生涯教育文献集 I-VI(1-60;別冊6冊)	日本図書センター	1999-2001	66
社会学	日本労働運動資料集成	旬報社	2007	14
民俗学	宮本常一著作集 32-50, 別集9-10,15	未来社	1986-2009	22
体育	スポーツ文化論シリーズ 全14巻	創文企画	1993-2005	14
日本文学	節用集大系 第1-100巻, 翻字集	大空社	1993-1996	101

### 2. 叢書・資料類【DVD, CD-ROM, マイクロフィルム】 (合計 97 点)

日本史	古田良一文庫「海事関係資料」【マイクロフィルム】	雄松堂出版	2006	39
芸術	國華 / 朝日新聞社編集 第1期【DVD】	朝日新聞出版	2003	2

### 3. 欠本補充が必要な図書 (合計 721 冊)

東洋思想・仏教	大日本佛教全書第1-30,34-61,63-69巻 他	大法輪閣	2007	128
法学	日本比較法研究所研究叢書 10,12-14 他	中央大学出版部	1987-2009	56

## 「太宰治 友情・愛・青春」をテーマに 第6回学術講演会を開催

附属図書館主催の第6回学術講演会が、10月17日、弘前大学創立50周年記念会館において開催された。この催しは学生の学術研究に対する意識向上と地域社会への貢献など学術成果の普及を目的として、平成16年から毎年開催し、今年で6回目となる。今年には弘前大学の前身校の一つである官立弘前高等学校を卒業した太宰治の生誕百周年を記念して、『太宰治 友情・愛・青春』をテーマに開催した。

学術講演会は、教育学部附属中学校演劇部による「走れメロス」の朗読で幕を開け、続いて太宰治氏の長女の津島園子さんが「太宰をめぐる



特別講演 太宰治長女  
津島園子氏

る家族愛」と題した特別講演を行い、最後に、近代文学が専門で太宰の研究者として著名な東京大学大学院の安藤宏准教授が、「太宰治の表現世界」と題した学術講演を行った。

附属中学校演劇部の朗読では、「走れメロス」の感動的なクライマックスが28名の群読で読まれ、満場の喝采を浴びた。また、特別講演の津島園子さんは、「太宰治をめぐる家族愛」と題し、妻の美知子夫人が夫の太宰を作家として一人の人間としていかに深く理解し、真実の愛を捧

げたかについて、秘蔵の写真や資料をもとに講演した。学術講演の安藤准教授は、太宰作品の文体の特色に焦点を当て、作品の魅力や人気の秘密について講演した。

学生、市民など250名の参加者は講演に熱心に耳を傾け、太宰文学についての理解を深めた。  
(学術情報課長 酒井量基)



附属中学校演劇部による朗読  
「走れメロス」



学術講演 東京大学大学院  
准教授 安藤宏氏

## 太宰治生誕 100 周年記念展示



今年(平成21年)は太宰治生誕100周年ということで、博物館等での特別展、映画制作、関連書籍の出版など、全国的に太宰治が大きく取り上げられている。この機会に、太宰の母校たる当学でも太宰関係の資料を展示し、学生の皆さんに見ていただいているかどうかということで、「太宰治生誕100周年記念展示」を企画した。

太宰の入学前の肖像写真が貼ってある写真帖、在校時に執筆した小説が載っている新聞や雑誌、太宰の出席日数や教師によるコメントが記載されている学籍簿などを、6月17日から7月16日までの約一ヶ月間展示した。これらのうち写真帖や学籍簿は、世界に1つしかない貴重な資料であり、通常は貴重資料保管庫に収納されているため、直接目にする機会は少ないものである。

展示は終了したが、附属図書館2階には「太宰治研究文庫」というコーナーが常設されており、太宰関係の図書が集中的に配置されているので、こちらもぜひご利用いただきたい。

(情報サービスグループ係長 齋藤香織)

## 利用者対応研修を実施

9月9日、ビジネスマネジメントが専門の森樹男人文学部教授をアドバイザーに迎え、利用者対応の職員研修を実施した。この研修は、日常業務を客観的な視点から見直し、今まで気づかなかった課題や問題点を発見し、利用者対応の改善につなげることを目的としている。研修では、利用者対応の様々な状況を想定したグループ討議が行われた後、課題ごとにロールプレイングによる実習を行った。ロールプレイングの実習では、いくつかの改善点が発見され有意義な実習となった。

今後もこのような研修を通して利用者対応についてのスキルアップと情報共有を行い、利用者サービスの向上に活かしていきたい。  
(学術情報課長 酒井量基)



## 「ヴィヨンの妻～桜桃とタンポポ～」特別試写会を開催



根岸監督(右)と山口准教授(左)のトークイベント

10月5日、第33回モントリオール世界映画祭で最優秀監督賞を受賞した根岸吉太郎監督(東北芸術工科大学教授)を迎え、トークイベントと受賞作品の「ヴィヨンの妻」の特別試写会を附属図書館主催で開催した。

会場の弘前大学創立五十周年記念会館には、学生・教職員ら300人が参加。上映に先立ち根岸監督と近現代文学が専門の山口徹人文学部准教授によるトークイベントが行われ、根岸監督は、「太宰が希望に満ちて入った学校で話すのは感無量」「この映画をきっかけに太宰の作品を読み直して、人生を豊かなものにしてほしい」と学生たちにメッセージを送った。

その後、学生から監督への花束贈呈と特別試写会が行われた。

「ヴィヨンの妻」は、太宰治原作の短編数本を基に、破滅的な生活を送る小説家の夫を持ちながら前向きな明るさを失わない妻の姿を描いた作品。本作品のヒロインである小説家の妻を松たか子さんが、太宰をモデルにした小説家を浅野忠信さんが演じている。(学術情報課長 酒井量基)

## 知の宝！古本市～リユース・ブックフェア～を開催

毎年恒例となった古本市を、今年も弘前大学総合文化祭期間中(10月23日～25日)開催した。図書館で不用となった図書を無料で差し上げ、再利用(リユース)していただくための企画であり、毎年好評を得ている。今年は比較的新しい図書を用意したためか、3日間で約6,000冊もの図書が引き取られていった。特に歴史学分野の図書や、辞書類は人気が高いようである。  
(雑誌情報担当 長谷川友紀)



## 電子ジャーナル ScienceDirect 講習会を開催

10月28日、文京地区と本町地区の2会場で、エルゼビア認定トレーナーであるゼファー・ビヨンド社の松山裕二氏を講師に迎え、電子ジャーナル ScienceDirect 講習会を開催した。ScienceDirect は、本学では概ね1998年以降から最新号まで約2,000誌の電子ジャーナルが利用可能である。

講習会の前半は画面例を見ながら説明を受け、後半は実際に自分でパソコンを操作しながらの実習となった。ユーザー登録の方法、アラート機能、論理式を使った検索方法、引用調査など、実際に役立つ利用方法を学んだ。

プロの講師による講習会ということで、文京地区20名、本町地区21名の参加者があった。附属図書館では、今後もこのような利用講習会を継続的に開催し、電子ジャーナルの利用をより一層広めたいと考えている。

(雑誌情報担当 長谷川友紀)



## 弘前大学出版会より新刊紹介

### 「官立弘前高等学校資料目録―北浜の学舎の資料群―」 弘前大学附属図書館編



本年(2009)、弘前大学は創立60周年を迎えた。本書を編集した附属図書館も開学と同時に開設されたので、60年の星霜を重ねたことになり、本書は開館60年を記念する一冊といってよかろう。附属図書館では、昨年、本学の所蔵されていた官立弘前高等学校の資料群の調査・整理作業を実施し、このたび弘前大学出版会から同資料目録として上梓した。本書は、目録類にありがちな無味乾燥な内容とせず、未公開の写真類を可能な限り掲載し、加えて同資料の評価や特徴等を論考として掲げて、読者の理解を助けるように工夫した。旧制の高等学校が閉校して60年、資料の散逸が心配されるなかで、官立弘前高等学校の学校資料を目録として集成した本書は、教育史、学校史を研究する上で必要不可欠な資料である。また、本年は太宰治生誕100周年でもあり、同資料中に見える太宰治(本名・津島修治)の関係資料は、文学の分野でも必ずや研究を前進させるに違いないと期待している。

(発行:2009年6月30日/定価3,990円)

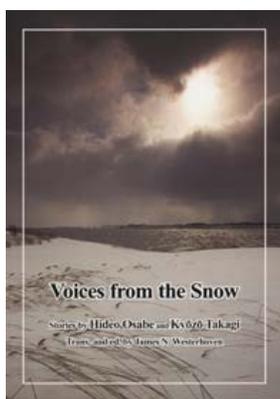
### 弘大フックレット No.6 「まち育てのススメ」 北原啓司著

現代社会は、白いキャンバスに様々な夢を描き続けてきた「まちづくり」から、自分たちの資源を十分に活かすために多様な工夫や知恵を集めて何とかしようとする「まち育て」に変わりつつあるということ、著者が見聞きし、また自らが関わった豊富な事例を紹介しながらわかりやすく解説している。「まち育て」の主人公は、まちを「つくる」人ではなく、「たべる」人でなければならない。舌の肥えた生活者の眼差しや思いが活かされていく「まち育て」は、街なかに舞台(ハード)を次々と創りだしていくのではなく、物語(ソフト)を編集して、多様な出来事を誘発していくプロセスであるというこ



とを、読者にぜひ気づいてもらいたいという気持ちからまとめられた著書である。

(発行:2009年7月23日/定価525円)



## 「Voices from the Snow」 Trans. and ed. by James N. Westerhoven

『Voices from the Snow』。津軽文学と解説するエッセーの前例のない選集。長部日出雄作「津軽じょんから節」、「津軽世去れ節」、「雪のなかの声」(1973年、第69回直木賞)、高木恭造作「婆々宿」と「相野」、津軽の昔話の二点は、いずれも初めての英訳出版。津軽三味線・津軽民謡・イタコ・鬼についてのエッセーは、一般読者だけではなく、学者にも興味深い。カラー写真37点、関係文献総覧、人名・地名一覧。

(発行:2009年9月14日/定価2,625円)


**弘前大学出版会** Hiroaki University Press  
 Tel: 0172-39-3168 Fax: 0172-39-3171 E-mail: hupress@cc.hirosaki-u.ac.jp

## 本学関係者の著作で、図書館に寄贈された図書と資料の一覧 平成21年4月～9月受贈分

学部名	寄贈者名	資料名	発行所	発行年	数	所蔵先
人文学部	長谷川 成一	季刊東北学 第二十号	東北芸術工科大学 東北文化研究センター	2009	1	本館
	山田 徹子	民俗学的想像力	せりか書房	2009	1	本館
	柴田 英樹	進化する環境会計 = The environmental accountancy of the evolving process	中央経済社	2009	1	本館
	李 梁	二十一世紀 2009年6月号	香港中文大學中國文化研究所	2009	1	本館
	松井 太	Aspects of research into Central Asian Buddhism : in memoriam Kogi Kudara	Brepols	2008	1	本館
		The early Mongols : language, culture and history : studies in honor of Igor de Rachewiltz on the occasion of his 80th birthday	Indiana University, Denis Sinor Institute for Inner Asian Studies	2009	1	本館
	人文学部附属 亀ヶ岡文化研究センター	成田コレクション考古資料図録	弘前大学人文学部 附属亀ヶ岡文化研究センター	2009	1	本館
	人文学部附属 雇用政策研究センター	仕事・生活とこころの健康に関する調査報告書	弘前大学人文学部 附属雇用政策研究センター	2008	1	本館
人文学部 民俗学 実習履修学生	大沢の民俗 : 青森県弘前市大沢	弘前大学人文学部 民俗学研究室	2009	1	本館	
教育学部	大谷 良光	子どもの生活概念の再構成を促すカリキュラム開発論 : 技術教育研究	学文社	2009	1	本館
	麓 信義	インサイドキック基本編	杏林書院	2009	1	本館
保健学研究科	保健学研究科	弘前大学大学院保健学研究科緊急被ばく医療人材育成プロジェクト : 活動成果報告書 (平成20年度)	弘前大学大学院保健学研究科	2009	1	本館
理工学研究科	片岡 俊一	岩手・宮城内陸地震被害調査研究報告書	北東北国立3大学, 岩手・宮城内陸地震被害調査研究グループ	2009	1	本館

学部名	寄贈者名	資料名	発行所	発行年	数	所蔵先
農学生命科学部	附属生物共生教育研究センター	金木農場の半世紀	弘前大学農学生命科学部附属生物共生教育研究センター金木農場	2009	1	本館
21世紀教育センター	土持ケ-リ-法一	津軽学：歴史と文化	東信堂	2009	1	本館
		ラーニング・ポートフォリオ：学習改善の秘訣	東信堂	2009	1	本館
地域共同研究センター	檜 楨 貢	市民的地域社会の展開	日本経済評論社	2008	1	本館
生涯学習教育研究センター	深作 拓郎	なぜ、今「子育て支援」なのか：子どもと大人が育ちあうしくみと空間づくり	学文社	2009	1	本館
		子育て支援の創造：アクション・リサーチの実践を目指して	学文社	2005	1	本館
		社会教育・生涯学習入門	三恵社	2005	1	本館
		子育て学へのアプローチ：社会教育・福祉・文化実践が織りなすプリズム	エイデル研究所	2000	1	本館
		子どもの豊かな育ちと地域支援	学文社	2002	1	本館
名誉教授	安野 真幸	楽市論：初期信長の流通政策	法政大学出版局	2009	1	本館
	宇野 忠義	青森農業は生き残れるか	北方新社	2009	9	本館 6 農生 2 理工 1
	松木 明知	麻酔科学の源流（続）	真興交易医書出版部	2009	2	本館 1 分館 1
中川五郎次とシベリア経由の牛痘種痘法		北海道出版企画センター	2009	2	本館 1 分館 1	
名誉博士	金 柄 珉	朝鮮-韓国文学的近代転変と比較文学	延辺大学出版社	2007	1	本館
		朝鮮文学的發展と中国文学	延辺大学出版社	2003	1	本館
		朝鮮中世紀北学派文学研究	延辺大学出版社	1990	1	本館
弘前大学出版会	弘前大学出版会	小学専門科学実験の手引き 2009年度版	弘前大学出版会	2009	3	本館 2 分館 1
		知能機械工学実験Ⅰ・Ⅱ 平成21年度版	弘前大学出版会	2009	3	本館 2 分館 1
		知能機械工学実験Ⅲ・知能機械工学設計平成21年度版	弘前大学出版会	2009	3	本館 2 分館 1
		国立大学法人弘前大学仕事のしおり 平成21年度版	弘前大学出版会	2009	2	本館 2
		地域の環境と生活の実験演習 2009年度版	弘前大学出版会	2009	3	本館 2 分館 1
		弘前大学創立六十周年記念ビジュアル版 写真で見る弘前大学 1999-2009	弘前大学出版会	2009	3	本館 2 分館 1
		写真集 続 弘前界限	弘前大学出版会	2009	3	本館 2 分館 1
		まち育てのススメ	弘前大学出版会	2009	3	本館 2 分館 1
		弘前大学歴代学長告辞集	弘前大学出版会	2009	3	本館 2 分館 1
		官立弘前高等学校資料目録—北溟の学舎の資料群—	弘前大学出版会	2009	3	本館 2 分館 1
		弘前大学六十年史 通史・資料編	弘前大学出版会	2009	2	本館 2
弘前大学生活協同組合	弘前大学生活協同組合	弘前大学卒業記念アルバム 平成20年度	弘前大学卒業アルバム編集委員会	2008	1	本館



弘前大学附属図書館報「豊泉」第30号

発行日：平成21年11月30日

編集／弘前大学附属図書館広報委員会

発行／弘前大学附属図書館 〒036-8560 青森県弘前市文京町1

TEL 0172(39)3162 FAX 0172(39)3171 URL <http://www.ul.hirosaki-u.ac.jp/>

標題の「豊泉」は、明治9年の「仏国学制」付録上巻中の「人智ヲ広ムルノ豊泉アリ」の文に基づき、松原邦明名誉教授命名 題字：藤原楚水編「書道六體大字典」（三省堂）より